

様式第1号(第2条関係)

指定
認定 申請書

令和6年12月25日

長久手市教育委員会 殿

住 所 長久手市前熊橋ノ本18番地

氏 名 前熊寺

(名称及び代
表者氏名)

市指定有形文化財
市指定無形文化財
市指定有形民俗文化財
長久手市文化財保護条例の規定による市指定無形民俗文化財の指定認定を受けたいの
市指定史跡
市指定名勝
市指定天然記念物

で、下記調書を提出いたします。

記

1 種別及び名称

有形文化財 韋駄天立像(円空仏)

2 員 数

1 躯

3 所在の場所

長久手市前熊橋ノ本18 前熊寺

4 所有者等の氏名(名称)及び住所

長久手市前熊橋ノ本18 前熊寺



5 現状(品質、形状、構造、重量、大きさ、地積等)

- ・像高 15.8cm
- ・総高 25.7cm
- ・台座 17.6cm (框座5.8cm+岩座11.8cm)

頭上に兜と思われる菱形様の突起が彫られる。長髪であり、眼球を突出させ、額と目尻に皺を刻み、大きい鼻、口許に微かに笑みがみられる。これらは円空の韋駄天像に特有の表情である。上下に連なった衣で、衣全体に縦の刻線が施されており、衣左右が鰭状に刻されているのも円空仏の特徴である。合掌して沓を履き岩座に立つ。背面は平滑で、肉眼でも赤外線撮影をしても墨書は認められない。

6 由来及び沿革

現在、韋駄天立像(円空仏)は、前熊寺庫裏の厨子に安置される。

長久手市には、本像の他にも杵ノ洞の永見寺に円空の薬師如来坐像(36.0cm)が安置されている。

尾張旭市の庄中観音堂には、円空仏5体(観音菩薩立像123.0cm、不動明王立像92.8cm、毘沙門天立像91.5cm、阿弥陀如来坐像67.4cm、薬師如来坐像54.8cm)が祀られている(現尾張旭市蔵)。

庄中観音堂は、前熊寺及び永見寺の北西約5kmにある。現在、岡崎市の満教会に祀られている不動明王三尊(不動明王立像70.7cm、制多迦童子立像37.5cm、矜羯羅童子立像36.5cm)は、日進市岩崎地区の山中の祠に祀られていた像である。日進市岩崎地区は、前熊寺及び永見寺の南西約5kmに位置する。

前熊寺及び永見寺は、庄中観音堂と日進市岩崎の中間点にあり、地理的にみれば同時期に円空が巡錫したと推定され、両寺の像はいずれも当地で造像されたと考えられる。庄中観音堂は名古屋市守山区の龍泉寺に近く、同寺には延宝4年(1676)の銘がある馬頭観音菩薩立像が安置されている。庄中観音堂と龍泉寺の像はよく似ており、庄中観音堂諸像の造像は延宝4年前後と推定される。

7 徴証、伝説、作者等

円空(寛永9年<1632年>-元禄8年<1695年>)は、江戸時代前期の修験僧である。特に、「円空仏」ともいわれる独特の作風をもつ木彫りの神仏像を各地に残している。

円空は生涯に約12万体の神仏像を彫ったとも推定され、現在までに約5300体余りの像が確認されている。円空仏は全国に所在し、北は北海道、青森県、南は三重県、奈良県にまでおよぶ。その中でも、愛知県、岐阜県をはじめとする各地には、円空作と伝えられる木彫りの仏像が数多く残されている。

8 その他参考となるべき事項

前熊寺の円空仏は、龍泉寺、庄中観音堂、日進市岩崎地区の巡錫経路に現存し、強い彫りと豊かな表情を示すことから、延宝4年頃の造像と推察される。円空仏の特徴と、前熊寺の地理的な位置関係から制作時期が推定可能な像であり、当地における円空の活動を考えるうえでも重要な作例である。

(添付書類)

- 1 現状を示すキャビネ型写真及び幻燈用スライド
- 2 地積図(史跡、名勝又は天然記念物の場合)
- 3 当該文化財の重要性及び保護の必要性を示す参考書類